



安藤聖一
西光寺で人形絵説き「命門の涙」



第24回観聖八幡宮会館修繕紀行 西念寺 平成24年6月28日



一龍斎春水
西光寺で講談「金子みすずの生涯」



平成24年6月28日
西念寺で調声人おつとめ「重誓偈」

築地本願寺
三畜評樹の猿



築地本願寺
三畜評樹の象



築地本願寺
三畜評樹の鳥



『三畜評樹の物語』

チベット、ネパール、インドなどのチベット仏教圏を旅したことのある人なら、鳥とウサギと猿と象が重なった絵柄を目にしたことがあるかも知れない。このモチーフは、以下のようなブツダの前世のお話であるジャータカ物語の中に出て来る

話に由来する。

サーリプツタ（舍利弗、しやりほつ）とモツガラーナ（目犍連、もつけんれん）を差し置いて、上位の席に坐ろうとした僧に、ブツダがこんな話をした。

鳥と猿と象が、お互いに誰が一番年長かと議論して、一本の木をいつ頃から知っているかによつ

て判断しようということになった。そして鳥が木の苗が植えられる前の様子を知っていたことが分かり、最年長だと認められた。鳥はブツダ、猿はサーリプツタ、象はモツガラーナの前世であったことをブツダが教え、ブツダは僧たちに、年長者を敬うよう、諭したという。

左の絵はネパールのお土産店のシールに描かれていたもの。



どうしてウサギが増えたかについてはよく分からない。